



通所支援事業のひとコマ

通所支援では重症心身障がいの方を対象に、いろいろな療育活動を行っています。今回はその中から、絵本の読み聞かせ活動をご紹介します。

読み聞かせの効果はいろいろあります。①コミュニケーションのきっかけになる、②絵を見て感性が豊かになる、③いろいろな物語世界に触れることで、知的好奇心が刺激される、④場面を想像する力が育つ、⑤言葉の表現を知ること、語彙が増え、言語能力が育つ、⑥(読み手側も)音読することで、脳の前頭前野が鍛えられ脳トレになる、などです。



当院の通所支援の主な対象である重症心身障がいの方は、お話ししたり理解したりすることは難しいことが多いですが、聞き慣れたスタッフの声はきちんと聞き分けてくれている様子です。スタッフも単に声に出して読むだけでなく、利用者さんの「こころ」がふり向いてくれるように、読み方を工夫したり、体に触れたり揺らしたりしながら読んでいきます。絵本も通常サイズだけでなく、大型絵本や音の出る絵本、しかけ絵本などいろいろな種類があります。やり取りができる利用者さんには、絵本にタッチしたり、「つつこみ」を入れてもらったりして、それぞれが主体的に絵本と関わるようにもしています。

これからも季節感のある、楽しい読み聞かせタイムを提供していきたいと考えています。

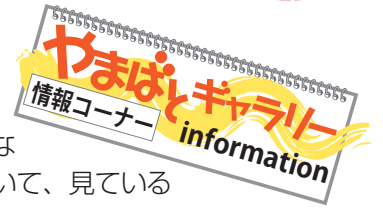
(療育指導室長 村松 順子)

今月の展示作品は「みのむし」です。

体の部分にはさまざまな色や柄の布がつけられていて、見ているだけでとても楽しくなるような作品ができました。

ぜひやまばとギャラリーでご覧ください！

(児童指導員 森 日奈子)



5病棟の生活のひとコマ 68



だんだんと肌寒く感じる日が増えてきて、秋らしい気候になってきましたね。季節の変わり目は体調を崩しやすい時期でもあるので、皆さんお体にはお気をつ

けください。

秋のこの時期といえばお月見。5病棟でも患者さんと一緒にお月見を行いました。大きな月の前にお供えしてあるお団子は紙ねんどでできており、患者さんが

丁寧に手でこころこころと形を整えて作りしました。紙ねんどの不思議な感触に、患者さんは皆さん興味津々な反応をしていました。5病棟では今後も、患者さんに楽しく季節を感じてもらえる療育活動をたくさん行っていきます。

(児童指導員 森 日奈子)

医療安全だより

